

実施日：令和7年10月19日（日） 天 候：曇り時々雨

当日参加者：38名

行 程：約6.5Km（午前中：2.6Km、午後～：3.9Km）

講 師：相原 嘉之氏（奈良大学 文学部文化財学科教授）

奈良大学・古都飛鳥保存財団連携イベント

飛鳥の古墳を巡る

朝から雨模様ですが、日差しが少なくウォーキング日和です。四神の館に集合し、まずは国宝キトラ古墳壁画（玄武）公開の見学から始まりました。凝灰岩から剥ぎ取った漆喰上の玄武の壁画がガラス越しに展示されていました。そして次からは奈良大学相原教授の解説の旅が始まります。最初に『キトラ古墳』を見学した後、『高松塚古墳』を眺めて高松塚壁画館に入りました。両古墳ともに「被葬者は特定できないがいろいろな学説があるのでみなさんいろいろ想像して楽しみましょう」...とのお話がありました。そして次は『中尾山古墳』の見学です。中尾山古墳に関してはキトラ古墳や高松

塚古墳と違い、当時の天皇の墓を示す八角形の古墳で火葬墓であることなども明白なため、文武天皇の真陵として学者の間では、ほぼ一致しているとのこと。国営飛鳥歴史公園館でお昼休憩をしてから『天武持統天皇陵』へ向かい

ました。盗掘時の検分録『^{あ お き の さ ん り ょ う き}阿不幾乃山陵記』や八角墳からも天武持統天皇陵に間違いはないとのこと。天武持統天皇陵から『鬼の俎雪隠古墳』→『カナヅカ古墳』→『欽明天皇陵』→『岩屋山古墳』へと西へ西へ歩を進めました。延喜式に記載された矩形の兆域ではありませんが、風水思想によりコの字型の尾根に囲まれた複雑な自然地形を利用して王家の墓が連続的に造られています。



そして最後に『牽牛子塚古墳』と『越塚御門古墳』を見学しました。飛鳥時代後半の比較的短期間に築造された著名な古墳が広い意味での檜隈の地の東－西、南－北に並んでいます。そして、最後に虹を見ることができて幸せな一日でした。

奈良大学の相原先生、学生さんやスタッフの方々お世話になりました、お疲れ様でした。ご参加いただいたみなさまありがとうございました。

